

『保護者と学校のよりよい関係づくり』
第1部「信頼関係づくりの基本姿勢」

3 基本姿勢その3
思いを伝えるときに



信頼関係づくりの基本姿勢 その3
「思いを伝えるときに」

面談や電話など、保護者の方と直接かかわる機会には、相手の思いを受け止めるだけでなく、こちらの思いを「伝える」ことが必要な場面も多いことと思います。

そのような機会に私たちが大切にしていけるとよいことには、どんなことがあるのでしょうか。

今回は 基本姿勢その3として、「思いを伝えること」について研修します。

学級の子どものことで、保護者の方に担任としてお伝えする事柄があるときの一場面について、考えてみましょう。

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに

<場面D>

担任している西郷港人さん（小3男子）が、水泳学習の日に、連日「水泳許可書」を忘れた。学校では保護者が押印した「水泳許可書」がないとプールには入ることができないきまりになっている。そのため港人さんは連日水泳学習を見学している。

担任はこのことを知らせ、「忘れ物がないようにきちんと見届けてほしい」という担任としての思いを伝えるために港人さんのお母さんに電話連絡をした。

<場面D>

担任している小学校3年生の男子児童、西郷港人さんが、水泳学習の日に、連日「水泳許可書」を忘れました。学校では保護者が押印した水泳許可書がないと、プールには入ることができないきまりになっています。そのため港人さんは、連日水泳学習を見学しています。

担任は、このことを知らせ、「忘れ物がないようにきちんと見届けてほしい」という担任としての思いを伝えるために、港人さんのお母さんに電話連絡をしました。

ではこれから、この電話連絡をする場面で、やりとりのはじまりとなる担任の言葉かけを、短い動画でご覧いただきます。



<動画再生>
西郷港人担任 その1
(約16秒)

動画視聴 (約16秒)

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに



お母さん、ちゃんと見て
くださっていますか

指摘された

責められた



いかがでしたか。どのような印象を持たれたでしょうか。

この担任は「お母さん、ちゃんと見てくださっていますか」という言い方をしていました。

この言葉や言い方で、「忘れ物がないようきちんと見届けてほしい」という担任としての思いは、このあと、正確に保護者に伝わっていくのでしょうか。

どのような伝わり方をするかは、相手との関係性や、このあとの話の流れにもよりますが、先ほどのような伝え方を会話の冒頭でしてしまうと、保護者は、自分がきちんと見ていないことを

「指摘された」

「責められた」

そのような感覚を最初に抱いてしまうかもしれません。

そのような状態では、保護者は、担任が伝えたいと思っていることを、このあと気持ちよく受け容れたり、協力しようという気になったりはしにくいものではないでしょうか。

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに

ネガティブな情報を保護者にお伝えしなければならないとき

- ・ 伝え方には**配慮**が必要
- ・ 相手の**心に届く伝え方**を
- ・ **話を切り出すとき**には特に意識して



今回のケースのように、子どもに関する、あまりよくない情報を保護者に伝えなければならないときには、特に伝え方に配慮し、相手の心に届く伝え方をしたいものです。

特に、会話の入り口でのこちらの話の切り出し方は、相手に強い印象を与えるものですから、十分に配慮をして始めたいところです。

伝える前に…
**相手の心に届く伝え方になって
いるかどうかの吟味を**



保護者

こちらの事情も確かめずに、先生の要求ばかり伝えられてもなあ…

保護者の心情は？

指摘や正論の押しつけは辛いなあ…



保護者

まずは、伝えようとするその前に、自分がどのような伝え方をこれからしようとしているのかということ、一呼吸置いて少し吟味し、それが「相手の心に届く伝え方になっているかどうか」という観点で、見つめてみることも必要かもしれません。

今回のような場面で、どのような言葉を使って伝えると良いのかは、ケースバイケースで、相手との関係性によっても、状況によっても異なります。

「このような言い方をするとよい」という最適解はないのかもしれませんが、たとえば、このような言い方を、まずはしてみるのはいかがでしょうか。



<動画再生>
西郷港人担任 その2
(約20秒)

動画視聴 (約20秒)

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに



港人さんもとっても
残念そうで…

どうしたのかなと思って
お電話をしました

Hint

気にかかることを
「**自分の気持ち**」として伝える

担任は、港人さん自身が残念そうな様子だったこと、そして、このことについて自分自身が「どうしたのかな」と心配な気持ちを持っているということが伝わる言葉かけをしていました。

「忘れ物がないように見届けてほしい」というこちらのお願いを伝える前に、まずは担任として心配している、気にかけている、そんな気持ちが伝わると、保護者の心情はずいぶん和らぐのではないのでしょうか。

それはこのあとのやりとりの雰囲気や、話の進み方にも大きく影響していき、保護者には、伝えたい内容が伝わりやすくなるということがありそうです。

このように、気にかかることを伝える時には、それによって生じている「自分自身の気持ち」としてまず伝えることを意識してみてはいかがでしょうか。

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに

伝える

聴く



Hint

「伝えたいとき」こそ
意識的に「聴く」ことも

また、私たちは、相手に伝えたいことがあるときには特に、「どのような伝え方をすると伝わるか」ということとのかく意識が向きがちです。

けれども、伝えようとするときにこそ、相手の思いをしっかりと聴いたり、きちんと確かめたりする姿勢をもっておきたいものです。

相手にどんな背景や状況があるのか、
相手がどんな思いを持っているのか、
そういったことを「分かろうとする姿勢」は、私たちが伝えたい思いが相手にきちんと伝わっていくための素地となるのです。

伝えようとするときにこそ、「聴く」ことにも意識を向ける。

バランスよくどちらにも取り組みながら関わっていくことが、保護者とのよりよい関係づくりにつながるでしょう。

では続いてもうひとつ、別のやりとりの場面について、考えてみましょう。
今度は保護者面談の一場面をとりあげます。

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに

<場面E>

担任している美又泉さん（中2女子）は、最近授業に集中しにくい様子が見られる。担任としては、泉さんのそんな様子が、このところずっと気にかかっていた。

そこで、学期末の保護者面談の際、泉さんの気にかかる様子について、保護者に伝えることにした。

<場面E>

担任している中学2年生の女子生徒、美又泉さんは、最近授業に集中しにくい様子が見られます。

担任としては、泉さんのそんな様子がこのところずっと気にかかっていた。

そこで、担任は学期末の保護者面談の際に、その様子について保護者に伝えることにしました。

ではこれから、この面談のなかでの担任の言葉かけを、短い動画でご覧いただけます。



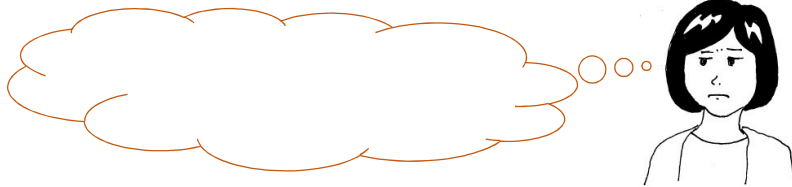
<動画再生>
美又泉担任 その1
(約15秒)

動画視聴（約15秒）

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに



何かおうちで変わった様子
とか、気づかれたことは
ないですか？



言われた**保護者の思い**は？

いかがでしたか。どのような印象を持たれたでしょうか。

この担任は、授業に集中できていないと伝えた上で、まず「何かおうちで変わった様子とか、気づかれたことはないですか？」という質問をしていました。

担任としては、子どもについての情報を得たいという思いで、深い意図はなく発した質問だったのかもしれませんが。

けれども、子どもの様子についての詳しいお伝えがない状態で、まず最初にこの言葉を担任から言われた場合、保護者がどのような思いを抱くのか想像してみると・・・

どうでしょうか。

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに

家庭に原因があると
思われている？



Hint

**保護者の立場に立って、
思いを想像しながら**

人によってはこのような捉えをされてしまう可能性はないでしょうか。

「子どもが授業に集中できていないのは、
何か家庭に原因があるのではと先生は言いたいのだろうか」

担任の側にそのような意図がなくても、詳しい状況を説明せずに、話の冒頭に、いきなり家庭の話聞き出そうとすると、人によっては誤解や曲解を与えてしまうかもしれません。

人に思いを伝える時には、
「自分が発する言葉によって、相手はどのような思いを持つのか」
ということについて、相手の立場に立って、想像力を働かせながら、やりとりをしていきたいものです。

今回の場面で、保護者に話を切り出すときには、たとえば、このような伝え方から入っていくのはいかがでしょうか。

泉の担任



泉さん、最近何だか

<動画再生>
美又泉担任 その2
(約18秒)

動画視聴（約18秒）

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに



体調が悪いのかな？
何か心配なことでも？

私、気になって
いますて…

Hint

気にかかることを
「**自分の気持ち**」として伝える

はじめにご覧いただいた電話連絡の場面の例と同様に、担任は、気にかかっていることを、まずは「自分自身の気持ち」として伝える形で話を切り出していました。

このような伝え方をまずすることで、保護者には、担任の心配する気持ちが伝わり、安心感をもって、面談に臨んでいただくことができるのではないのでしょうか。

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに

Hint

伝える言葉そのものよりも
言葉以外の要素（表情・声のトーン等）
から、様々なメッセージが
相手へと**伝わっている**ことを
意識しながら

最後に、繰り返しになりますが、基本姿勢その1でもお伝えしたように、「言葉以外の要素」から、実に多くのメッセージが相手に伝わっているということも、関わる上では常に心に留めておきたいものです。

私たちの表情や、目線、声のトーンなどが相手に伝える影響は、伝える言葉の内容そのものよりも、ずいぶん大きいと言われていています。

ノンバーバル・コミュニケーションの大切さについても意識しながら、伝えたい思いが「相手の心に届く伝え方」をしていけたらいいですね。

3 基本姿勢その3 思いを伝えるときに

「子どもたちの成長・幸せ」のために



保護者はパートナー

「一緒に」 育てる 支える 悩む 見守る 喜ぶ

保護者と学校は、立場こそ違っていても、「子どもたちの成長や幸せ」という共通の願いをもっています。

子どもたちの学校生活をよりよいものにしていくために、原点にある、この共通の願いを忘れることなく、保護者の方とのよりよい関係を作っていくものです。

以上で、信頼関係づくりの基本姿勢その3「思いを伝えるときに」を終わります。